

伊賀区域の平成30年度具体的対応方針(案)

資料 4-2

区域の概要

・2025年の病床数の必要量と2017年度の病床機能報告を比較すると、病床総数は169床過剰となっている。
 ・病床機能別に比較すると、高度急性期機能及び急性期機能で476床過剰である一方、回復期機能は239床、慢性期機能は103床が不足する。
 ・2025年に向け、急性期から回復期・慢性期への病床機能の転換を進めるとともに、全体的なスケールダウンが必要である。
 ・岡波総合病院が2025年の具体的な計画を明らかにしているものの、3つの基幹病院の機能分化・連携の議論を進めていく必要がある。

2017年病床機能報告(アンケート調査反映後)						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答等	計
岡波総合病院		249	50	36		335
上野総合市民病院		241	40			281
名張市立病院		200				200
寺田病院		55		80		135
森川病院		52				52
医療法人中産婦人科 緑ヶ丘クリニック		19				19
医療法人武田産婦人科		14				14
医療法人藤本産婦人科		5				5
にしうら眼科		2				2
医療法人卓山医院					3	3
医療法人佐那具医院					13	13
浅野整形外科内科					19	19
計	0	837	90	116	35	1,078

2025年に向けた役割・医療機能ごとの病床数					
担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数				介護保険施設等に移行(2023年)
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
救急の24時間365日体制に向けた取組を強化し、伊賀地域における急性期医療全般を担うとともに、急性期疾患受入増加に伴いポストアキュートの強化の観点から、回復期機能の充実にも取り組む。 ☑救急 ☑小児 □周産期 □災害					
伊賀地域における基幹病院の1つとして、医療機能(急性期機能、回復期機能、慢性期機能)のバランスがとれた地域の中核病院をめざすとともに、がん診療連携推進病院、在宅療養後方支援病院としての役割をはたす。 ☑救急 □小児 □周産期 ☑災害					
地域の中核病院として、急性期医療や高度医療を主として提供し、急激に進行する高齢化に対応するため回復期機能も担いながら、名張市の地域包括ケアシステムの一翼を担う。 ☑救急 ☑小児 ☑周産期 ☑災害					
別途、今後の対応方針等について、提出を依頼中。					
産科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。					
産婦人科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。					
産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。					
眼科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。					
非稼働病床ではないものの、2025(平成37)年時点の機能が「休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定」となっていることから、確認する予定 過去1年間に入院患者を収容していないことから、今後の運用の見通しについて説明いただく予定					別途、今後の運用見通しについて、提出を依頼中。
過去1年間に入院患者を収容していないことから、今後の運用の見通しについて説明いただく予定					
(計)					
2025年の病床数の必要量	77	284	329	219	909
2025年の病床数の必要量と2017年病床機能報告との差	-77	553	-239	-103	169

※なお、この具体的対応方針については、毎年度、地域医療構想調整会議で協議し、とりまとめることとします。